

令和6年度  
北海道博物館  
年度計画（案）

令和6年3月  
北海道博物館

— 凡 例 —

○ P6～P21における各項目の重点計画、及び一般計画の記載において、【 】中のア、イ、ウなどは、北海道博物館第2期中期目標・計画（※本文書には記載しておりません）の小項目ア、イ、ウに該当します。なお、記載の無い場合は、小項目が設定されていないものです。

例)

●北海道博物館令和6年度計画（案）（P6）

1 資料の収集・保存（博物館基盤グループ）

一般計画

（1）資料の収集

【ア】北海道博物館資料収集基本方針に基づく資料登録活動を継続的に実施 [年間資料情報件数見込 60 件程度、年間資料登録件数見込約 25 件程度]

⇒上記の【ア】は、下記の中期目標・計画のアに該当する。

●北海道博物館第2期中期目標・計画

（1）資料の収集

ア 資料収集方針に基づき、自然・歴史・文化に関わる後世に残すべき遺産を適切に収集する。

○ P6～P21における「所要見込額」「予算計上」の欄には、北海道の令和6年度当初予算額（既決）分を記載しています。

なお今後、予算が追加計上される場合や、予算の一部について執行保留が行われる場合があります。

# 目次

北海道博物館の組織機構と中期目標・計画の所管	4
1 資料の収集・保存	5
2 展示	6
3 調査研究	7
4 北海道開拓の村の整備	8
5 教育普及事業	9
6 ミュージアムエデュケーター機能の強化	10
7 施設及び周辺環境の整備	11
8 広報	12
9 評価制度の活用と利用者ニーズの把握	13
10 道民参加の推進	14
11 博物館ネットワーク	15
12 情報発信	16
13 人材育成機能の強化と社会貢献	17
14 研究成果の発信	18
15 アイヌ民族文化研究センターの事業	19
16 4つのビジョン（重点目標）、及び博物館運営に係る重点課題	20

## 北海道博物館の組織機構と中期目標・計画の所管

北海道博物館は、令和3年度より組織機構を改正し、中期目標・計画で示された15の事業展開と4つのビジョン（重点目標）の実現に向け年度計画を立て、各項目を各グループが分担して取り組む。

館長	副館長	部長	グループ（主幹・主査・係）	所管項目
館長	副館長	総務部長	総括グループ	7 施設及び周辺環境の整備
			企画グループ	4 北海道開拓の村の整備 9 評価制度の活用と利用者ニーズの把握 10 道民参加の推進 11 博物館ネットワーク 13 人材育成機能の強化と社会貢献 16 4つのビジョン（重点目標）、及び博物館運営に係る重点課題
	学芸副館長	学芸部長	博物館基盤グループ	1 資料の収集・保存 2 展示 12 情報発信
			道民サービスグループ	5 教育普及事業 6 ミュージアムエデュケーター機能の強化 8 広報
			研究戦略グループ	3 調査研究 14 研究成果の発信
	研究部長	自然研究グループ	※1～14及び16の学芸職員の専門性に係る活動（資料の収集・整理、調査研究、展示、教育普及など）を分担	
		歴史研究グループ		
		生活文化研究グループ		
		博物館研究グループ		
	-	-	アイヌ民族文化研究センター長	アイヌ文化研究グループ

令和6年度 博物館評価調査

中期目標・計画番号		1	所管 G	博物館基盤 G		
項目名		資料の収集・保存				
計画策定担当者		主査	学芸主幹	所要見込額 (千円)	前年度	当年度
		大坂拓	鈴木琢也		1,609	988
予算計上		<input type="checkbox"/> 【重点④】榊太記憶継承事業〔資料の保管 633千円、財源：基金繰入金、時限付き（15年間）〕 <input type="checkbox"/> 北海道博物館事業費（資料収集・保存管理）〔355千円〕				
年度計画	重点項目 (重要性・緊急性)	【中期目標・計画/重点④】「榊太記憶継承事業」の一環として、一般社団法人全国榊太連盟より受け入れた榊太関係資料（以下「旧榊太連盟から移譲を受けた資料」）約 6,000 点の収集・整理・保管				
	一般項目	(1) 資料の収集 【ア】北海道博物館資料収集基本方針に基づく資料登録活動を継続的に実施〔年間資料情報件数見込 60 件程度、年間資料登録件数見込約 25 件程度〕 【イ】収集資料の調査、整理・分類・登録の推進（各研究 G への働きかけ）  (2) 収集機能の強化 【ア】収集資料データベースの効率的な運用 【イ】災害発生時の被災資料の受け入れや保存処理などに対応できる機能と体制の整備に向けた検討（企画 G とも連携して実施） 【ウ】収集スペースの確保に向けた検討・取組  (3) 資料保存環境の維持 【 】適切な資料保存環境の維持に向けた取組 【 】文化財保護法にもとづく公開承認施設（国宝・重要文化財等の公開に適した施設・設備・体制を備えた施設）の変更申請及び会議・研修などへの参加  (4) 収集資料の利用への対応 【 】資料の貸出への対応〔年間見込 25 件 500 点程度〕 【 】資料の特別観覧への対応〔年間見込 70 件 1,000 点程度〕 【 】資料の模写品等使用への対応（北海道博物館）〔年間見込 120 件 300 点程度〕 【 】資料の模写品等使用への対応（開拓の村）〔年間見込 40 件 150 点程度〕				
前年度との主な変更点		・変更点なし				
直近の協議会評価意見 に対する取り組み		・該当意見なし。				
特記事項 (計画を達成するための課題等)		・特になし。				

## 令和6年度 博物館評価調査

中期目標・計画番号	2	所管 G	博物館基盤 G			
項目名	展示					
計画策定担当者	学芸主査	学芸主幹	所要見込額 (千円)	前年度	当年度	全体所要額
	青柳かつら	鈴木琢也		15,458	13,903	
予算計上	<input type="checkbox"/> 【重点④】樺太記憶継承事業 [展示公開 3,720 千円、財源：基金繰入金、時限付き (15 年間)] <input type="checkbox"/> 北海道博物館特別展 [特別展 10,000 千円] <input type="checkbox"/> 北海道博物館事業費 (展示会等に必要な機器借上・大型プリンタ) [183 千円]					
年度計画	重点項目 (重要性・緊急性)	【中期目標・計画/重点④】旧樺太連盟から移譲を受けた資料の展示に向けた検討 【中期目標・計画/重点②】【(2)イ】道民参加型展示の企画・推進 【(1)イ】文化観光推進法に基づく「北海道立総合博物館を中核とした野幌森林公園エリアの文化観光推進拠点計画」(以下、「文化観光推進拠点計画」)の実現を図るため、利用者ニーズに基づいた総合展示の検証、段階的部分改修の計画作成と今年度改修を実施する。				
	一般項目	(1) 総合展示室の運営 【ア】総合展示室における展示資料の入替え推進 [年間延べ 40 点程度] 【ア】クローズアップ展示コーナーの更新推進 [年間 8 件 30 回程度] 【ア】アイヌ文化 Q & A (第 2 テーマ) の更新推進 [年間 3 回程度] 【ア】総合展示 2 階出口付近の参加型展示の更新 [年間 1 回程度] 【ア】第 4 テーマ「今とこれからをつくる」の入替え推進 [年間 3 件程度] 【ア】学芸員紹介コーナーの入替え [年間 1 回程度] 【イ】総合展示の小規模改訂計画の作成と本年度改修の実施 【イ】次年度総合展示更新実施計画 (各テーマの個別資料入替、クローズアップ展示) の作成 【ウ】総合展示のメンテナンスと総合展示室の管理 [随時] 【ウ】大掃除の実施計画作成と推進 [年間 1 回]  (2) 企画展示の開催 【ア】他機関との連携・協働、巡回展の誘致を視野に入れた次年度以降企画展実施計画の作成 【ウ】特別展の開催推進・運営 [年間 1 件程度] 【ウ】企画テーマ展の開催推進・運営 [年間 3 件程度] 【ウ】アイヌ民族文化研究センターが主催する巡回展の開催推進・運営 [年間 1 件程度] 【ウ】企画展示に係る図録・リーフレットの編集・作成・刊行 [年間 4 件程度] 【 】特展室以外で実施する小規模展示の開催 [年間 2 件程度] 【 】特別展示のメンテナンスと特別展示室の管理 [随時]  *北海道開拓の村歴史的建造物の内部展示および展示資料の管理・充実 (企画 G とも連携して実施)				
前年度との主な変更点	・「文化観光推進拠点計画」が採択され、総合展示部分改修についての予算措置がなされる予定のため、重点項目【(1)イ】に総合展示の部分改修の実施を追加した。 ・総合展示室「クローズアップ展示 0」新設に伴い、更新件数・点数を増やした。 ・「総合展示資料目録の作成・更新」は、「文化観光推進拠点計画」事業による改修等によって総合展示自体の更新が今後継続されること、他業務との兼ね合いでこれまで未着手である実態から削除した。 ・R5 年度、特展室以外の館内で実施する小規模展示の実施を内容に含む要領が定められたことにより、この開催について記載した。					
直近の協議会評価意見 に対する取り組み	・該当意見なし。					
特記事項 (計画を達成するための課題等)	・特になし。					

令和6年度 博物館評価調査書

中期目標・計画番号	3	所管 G	研究戦略 G			
項目名	調査研究					
計画策定担当者	学芸主査	学芸主幹	所要見込額 (千円)	前年度	当年度	全体所要額
	東 俊佑	水島未記		14,488	10,283	
予算計上	<input type="checkbox"/> 【重点④】樺太記憶継承事業 [調査研究 1,680 千円、財源：基金繰入金、時限付き (15 年間)] <input type="checkbox"/> 北海道博物館試験研究費 (外部資金活用) [7,204 千円] <input type="checkbox"/> 北海道博物館試験研究費 (一般研究) [1,399 千円] ※アイヌ民族文化研究センターの研究プロジェクト研究費は、北海道博物館事業費 (アイヌ民族文化研究センター・調査研究費) [919 千円] として計上 →「15 アイヌ民族文化研究センターの事業」を参照のこと。					
年度計画	重点項目 (重要性・緊急性)	【中期目標・計画/重点④】「樺太記憶継承事業」(旧樺太連盟から移譲を受けた資料を活用した樺太の歴史・生活文化等の記憶継承に関する調査研究)の実施推進 [道費による研究]				
	一般項目	【ア】北海道の自然・歴史・文化総合研究プロジェクトの実施推進 [道費による研究：3 課題] 【ア】アイヌ民族文化研究センターの研究プロジェクトの実施推進 [道費による研究：2 課題] 【イ】道民・地域との協働・連携による地域情報集積プロジェクトの実施推進 [道費による研究：5 課題] 【ア】【ウ】科学研究費による研究の実施推進 [競争的外部資金による研究：11 課題+α 見込み] 【ア】【ウ】科学研究費以外の競争的外部資金による研究の実施推進 [競争的外部資金による研究：0 課題] 【エ】北東アジアのなかの北海道研究プロジェクトの実施推進 (サハリン州郷土博物館、ロイヤル・アルバータ博物館との共同研究・学術交流の推進) [道費による研究：2 課題] 【オ】研究課題評価の実施 [道費による研究：10 課題] 【オ】館内定例研究報告会の実施 [年間 12 回]				
前年度との主な変更点	・変更点なし。					
直近の協議会評価意見 に対する取り組み	・該当意見なし。					
特記事項 (計画を達成するための課題等)	・特になし。					

令和6年度 博物館評価調査

中期目標・計画番号		4	所管 G	企画 G			
項目名		北海道開拓の村の整備					
計画策定担当者		研究主査	学芸主幹	所要見込額 (千円)	前年度	当年度	全体所要額
		遠藤志保	会田理人		2,297	2,297	
予算計上		<input type="checkbox"/> 開拓の村費（開拓の村建造物老朽度調査）[2,297 千円] ＊開拓の村建造物の改修工事は、建設部集約工事により「北海道開拓の村旧北海中学校改修工事」のほか、「北海道開拓の村ビジターセンター改修工事」、「旧藤原車構製作所改修工事」に係る実施設計、外周柵（フェンス）改修等を実施予定。					
年度計画	重点項目 (重要性・緊急性)	【中期目標・計画／重点①】【ウ】「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」（平成 30 年 12 月策定）の実現に向けた取組の推進 ・文化観光推進法に基づく「北海道立総合博物館を中核とした野幌森林公園エリアの文化観光推進拠点計画」（文化庁・文化芸術振興費補助金）による、「北海道総合博物館文化観光拠点施設機能強化事業」の実施 ・開拓の村を中心に、収蔵資料のデジタルアーカイブを促進（目標：800 件） ・開拓の村の屋内展示の魅力向上（対象：旧岩間家農家住宅） ・開拓の村の歴史的建造物における「三次元点群データ」のデータ構築 ・開拓の村を回遊する拠点になる「公開型修復工房」整備に向けた実施設計					
	一般項目	【ア】北海道開拓の村歴史的建造物の補修工事実施設計（発注：建設部、指導・助言：博物館）[年間 2 件程度] 【ア】北海道開拓の村歴史的建造物の老朽度調査[年間 2 件程度] 【ア】北海道開拓の村歴史的建造物のメンテナンス [随時] 【ア】北海道開拓の村歴史的建造物等の補修計画の検討・調整・作成（計 52 棟＋インフラ） 【イ】北海道開拓の村歴史的建造物の内部展示および展示資料の管理・充実（随時、基盤 G と連携して実施） 【イ】スマートフォンを利用した展示解説アプリ「ポケット学芸員」による多言語解説サービス運用・検証・改善 [6 カ国語、110 コンテンツ]					
前年度との主な変更点		・重点項目、一般項目の(※)の項目は、【中期目標・計画／重点①】「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」の実現に向けた取組の推進（→文化観光推進法に基づく「北海道立総合博物館を中核とした野幌森林公園エリアの文化観光推進拠点計画」が採択されたことによる事業の実施）に関わる項目である。					
直近の協議会評価意見に対する取り組み		・該当意見なし					
特記事項 (計画を達成するための課題等)		【北海道立総合博物館を中核とした野幌森林公園エリアの文化観光推進拠点計画（文化観光推進事業）】 ・実施項目が多岐にわたることから、全体的な作業スケジュール管理や館内他業務との調整、実施体制の構築が必要。					



## 令和6年度 博物館評価調査

中期目標・計画番号	5	所管 G	道民サービス G			
項目名	教育普及事業					
計画策定担当者	学芸主査	学芸主幹	所要見込額 (千円)	前年度	当年度	全体所要額
	表溪太	三浦泰之		326	326	
予算計上	<p>□北海道博物館事業費（魅力あるイベント事業）[326 千円]</p> <p>※北海道博物館特別展関連イベントは、北海道博物館特別展（財源：地方創生推進交付金）の一部を使用予定 →「2 展示」を参照のこと。</p> <p>※解説員（一般職非常勤職員）及び会計年度任用職員の人件費は除く。</p>					
年度計画	重点項目 (重要性・緊急性)	【中期目標・計画/重点①】「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」（平成 30 年 12 月策定）に関わる教育普及事業のあり方の具体的取組の検討				
	一般項目	<p>(1) 魅力あるイベントの充実</p> <p>【ア】【イ】【ウ】一般普及行事の実施推進 [年間 50 回程度]</p> <p>【ア】【イ】 総合展示室等で行うイベントの実施推進 [随時]</p> <p>【ア】「ちゃれんがラリー」の実施と検証・改善・拡充 [祝日]</p> <p>【ア】【イ】【ウ】 次年度普及行事実施計画の作成</p> <p>【エ】「情報デスク」を活用した交流・誘導 [常時]</p> <p>【エ】 解説員による総合展示の展示解説 [常時]</p> <p>【エ】 解説員等による展示室・はっけん広場等の展示解説活動の今後のあり方の検討・試行</p> <p>(2) 社会的ニーズに合わせた教育普及事業の充実</p> <p>【ア】 学校団体および一般団体を対象とした「グループレクチャー」の実施・拡充 [8メニュー]</p> <p>【イ】「ポケット学芸員」による多言語解説サービスの運用・検証・改善・拡充</p> <p>【イ】 展示解説器（音声ガイド）を利用した多言語解説サービスの運用・検証・改善・拡充</p> <p>【イ】 総合展示解説書「ビジュアル北海道」の検証と、ワークブック、新しい展示解説書の作成検討</p> <p>【イ】 総合展示室における子ども向け展示解説の検討</p> <p>【イ】 ウェブサイト内「はくぶつかんであそぼう！子どものページ」の内容検討・更新</p> <p>【イ】 視覚障がい者向け「さわれる博物館キット」の運用・検証・改善・拡充</p> <p>【イ】 オンライン事業「おうちミュージアム」の運用・検証・改善・拡充</p> <p>(3) はっけん広場の運営</p> <p>【ア】 解説員によるはっけん広場の展示解説 [常時]</p> <p>【ア】【イ】「はっけんイベント」の実施 [年間 7メニュー]</p> <p>【イ】「はっけんキット」の運用 [41メニュー]</p> <p>【ウ】 学校教育用補助教材の貸出と開発の推進</p>				
前年度との主な変更点	・学校団体向け教育プログラムを整理し、体験学習（「はっけんプログラム」）はグループレクチャーに統合する。					
直近の協議会評価意見 に対する取り組み	・該当意見なし。					
特記事項 (計画を達成するための課題等)	・特になし。					

## 令和6年度 博物館評価調査

中期目標・計画番号	6	所管G	道民サービスG			
項目名	ミュージアムエドゥケーター機能の強化					
計画策定担当者	学芸主査	学芸主幹	所要見込額 (千円)	前年度	当年度	全体所要額
	表溪太	三浦泰之		0	0	
予算計上						
年度計画	重点項目 (重要性・緊急性)	【ウ】 新学習指導要領を踏まえた小学校、中学校、高等学校、特別支援学校児童・生徒の主体的・対話的で深い学びをサポートするための具体的取組の検討				
	一般項目	【ア】 文化庁や北海道博物館協会（およびそのブロック組織）等において実施されるミュージアムエドゥケーター養成関連研修会への職員派遣の調整 [都度実施] 【ア】 博物館職員の教育普及活動向上に必要な館内研修会等の企画の検討 【ア】 解説員研修の実施 [都度実施] 【イ】 学校団体の博物館利用を促進するための学校教職員向けの研修会の実施 「教員のための博物館の日」の実施 [年間1回、対象：学校教員等] 【イ】 学校団体の博物館利用を促進するための学校教職員、及び旅行会社向け下見対応の実施 [年間30件程度] 【イ】 学校団体の博物館利用を促進するための「学校利用ガイド」の改訂 [都度実施] 【イ】 学校団体向けワークシートの運用・検証・改善・拡充				
前年度との主な変更点	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校教員向けの研修会は「教員のための博物館の日」に統合する。</li> <li>「学校利用ガイド」は必要に応じて改訂する。</li> </ul>					
直近の協議会評価意見に対する取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度第2回博物館協議会において、予算が0円の事業項目について評価結果が低調の傾向があるという指摘をいただいた。研修の派遣旅費については館内調整を図り、職員派遣が実現できるよう努める。</li> </ul>					
特記事項 (計画を達成するための課題等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>特になし。</li> </ul>					

令和6年度 博物館評価調査書

中期目標・計画番号		7	所管 G	総括 G			
項目名		施設及び周辺環境の整備					
計画策定担当者		主査	主幹	所要見込額 (千円)	前年度	当年度	全体所要額
		藤田竜太	島村哲也		418,743	421,417	
予算計上		□北海道博物館管理運営費 [409,161 千円、指定管理負担金 (博物館、開拓の村、自然ふれあい交流館、森林公園含む)] □野幌森林公園管理費 (庁舎等維持費) [3,256 千円] □野幌森林公園施設整備費 [9,000 千円]					
年度計画	重点項目 (重要性・緊急性)	【中期目標・計画/重点①】【(3)】「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」(平成 30 年 12 月策定)の実現に向けた取組の推進 ・「野幌森林公園エリアの活用」及び「北海道開拓の村利活用方針」に基づく具体的な取組					
	一般項目	(1) 館内施設の整備と活用 【ア】 老朽化した施設・設備補修の実施など快適かつ安全な施設利用に向けた検討・取組 【ア】 特別展の開催に合わせたグッズ販売など博物館の魅力アップの取組に向けた検討 【ア】 年齢、母語、障がいの有無などを問わず快適に利用できるユニバーサル・ミュージアムをめざすための総合展示室その他館内における施設・設備の整備に向けた検討・取組 【イ】 屋上スカイビューの特別開放を実施 [年間8回] 【イ】 記念ホールの開放ほか施設の多様な活用  (2) 周辺環境の整備 【ア】 野幌森林公園内の自然公園設備の点検及び老朽化した箇所の改修による安全性・利便性の向上 【ア】 公共交通機関の利便性向上に向けた現状把握 【イ】 サインの統一化に向けた取組 【ウ】 野外展示の現実に向けた他県での類似事例等の情報収集  (3) 野幌森林公園内施設との一体的な取組の推進 【 】 指定管理者との連携強化を目的とした博物館管理運営等連絡調整会議の運営 【 】 関係機関との情報交換・連絡調整					
前年度との主な変更点		・変更点なし。					
直近の協議会評価意見に対する取り組み		・令和4年度第1回目協議会 「新さっぽろ駅でのバスの乗り換えがわかりにくい。初めての方でも、地下鉄を降りてからスムーズに来館できるよう検討が必要」との意見については、今後、来館者からの要望も把握・整理のうえ、交通事業者等との相談が必要。					
特記事項 (計画を達成するための課題等)		・老朽化した施設・設備補修については、指定管理者における維持管理の対応のほか、施設・設備の更新について道建設部集約工事による「計画修繕」を実施しているところ。  ・指定管理者における維持管理に係る補修工事等については、協定の負担金の範囲で実施しているが、老朽化している施設・設備の数が多いため、全て対応する事が困難であり、今後、優先順位を考慮し、施設・設備の縮小・廃止も検討する必要性が生じている。  ・野幌森林公園内の自然公園設備の点検について、老朽化した箇所の改修については、建設部による道有建築物等の集約事務の対象外であり、その都度、協議が必要。なお、記念施設地区の整備については、記念塔跡地のエリア活用事業により検討されているところ。					

## 令和6年度 博物館評価調査

中期目標・計画番号	8	所管 G	道民サービス G			
項目名	広報					
計画策定担当者	学芸主査	学芸主幹	所要見込額 (千円)	前年度	当年度	全体所要額
	圓谷昂史	三浦泰之		529	529	
予算計上	□北海道博物館事業費（広報サービス事業費）[529 千円] ※上記は印刷製本費。発送費は、野幌森林公園管理費（庁舎等維持費）のなかの通信運搬費 [520 千円] より充 当。					
年 度 計 画	重点項目 (重要性・緊急性)	【(1)ア】各種イベント、特に特別展への誘客促進に向けた取組				
	一般項目	(1) 広報活動の強化 【ア】報道機関等への対応（新聞、雑誌、テレビ、ラジオほか）[掲載・報道見込：年間延べ 400 件程度] 【ア】報道機関等へ戦略的に働きかけていく広報活動の実施 【ア】各種広報媒体への学術的な情報や知見の提供（協力、寄稿、出演等）の推進 [年間延べ 100 件程度] 【ア】招待講演（講座・講演会）等への職員派遣に伴う道民と直に接する広報活動の推進 【ア】ICT を活用した広報（ウェブサイト、Twitter 等による展示、教育普及、その他博物館活動に関する情報の発信）の実施（年間 200 回程度） 【ア】広報誌『森のちゃれんがニュース』の編集・発行・配布（年間 4 回（季刊）刊行） 【ア】『行事あんない』の編集・発行・配布（年間 2 回（前期・後期）刊行） 【ア】特別展ポスター、チラシの編集・作成・配布（年間 1 回） 【ア】企画テーマ展ポスター、チラシの編集・作成・配布（年間 3 回） 【ア】特別イベント等のポスター、チラシの編集・作成・配布（年間 1 回程度） 【ア】各種印刷・刊行物の発送・配布（年間 7 回程度） 【ア】修学旅行その他団体旅行の誘致に向けた検討・取組 【ア】海外に向けた情報発信の強化に向けた検討 【イ】愛称やロゴマークの積極的活用 【イ】愛称およびロゴマークの浸透に向けた取組に連動し、北海道博物館の建物そのものが「森のちゃれんが」として見て美しい建物として認知され、ブランド化されていくための検討  (2) 他機関との連携による広報活動の強化 【 】北海道教育委員会（北海道生涯学習推進センター）と連携した、「道民カレッジ」への当館一般普及行事の情報提供（年間 2 回） 【 】他機関との連携による広報活動の実施（年間 5 件程度）				
前年度との主な変更点	・変更点なし。					
直近の協議会評価意見 に対する取り組み	・該当意見なし。					
特記事項 (計画を達成するための課題等)	・特になし。					

## 令和6年度 博物館評価調書

中期目標・計画番号	9	所管 G	企画 G			
項目名	評価制度の活用と利用者ニーズの把握					
計画策定担当者	研究主査	学芸主幹	所要見込額 (千円)	前年度	当年度	全体所要額
	遠藤志保	会田理人		416	429	
予算計上	【環境生活部総務課計上】 □総務管理諸費（各種審議会経費：北海道立総合博物館協議会）[429千円]					
年度計画	重点項目 (重要性・緊急性)	【イ】 オーディエンス・リサーチ（利用者調査）の実施				
	一般項目	<p>(1) 評価制度の活用</p> <p>【ア】 前年度の事業実績の取りまとめの推進</p> <p>【ア】 「博物館総合評価」における自己評価の実施推進・運営〔事前評価 1 回、事後評価 1 回〕</p> <p>【ア】 『要覧』の編集・刊行〔年 1 回〕</p> <p>【イ】 「北海道立総合博物館協議会」による調査審議、外部評価、自己評価、オーディエンス・リサーチに基づいた事業改善ならびに次年度計画の作成</p> <p>【ウ】 「北海道立総合博物館協議会」の開催（年間 2 回）による調査審議と外部評価の実施推進・運営</p> <p>【ウ】 「北海道立総合博物館協議会アイヌ民族文化研究センター専門部会」の開催（年間 1 回）による調査審議と外部評価の実施推進・運営</p> <p>(2) 利用者ニーズの把握</p> <p>【イ】 特別展、企画テーマ展、アイヌ文化巡回展期間の来館者アンケート調査による利用者ニーズの把握および利用者満足度の測定・分析</p> <p>【イ】 利用者満足度調査による利用者ニーズの把握および利用者満足度の測定・分析（秋期の一定期間実施）</p> <p>【イ】 解説員活動日誌による利用者ニーズ・意見の把握・分析（開館日毎日）</p> <p>【イ】 図書室業務日誌による利用者ニーズ・意見の把握・分析（開館日毎日）</p> <p>【イ】 アイヌ文化 Q &amp; A（総合展示室第 2 テーマ）による利用者ニーズ・意見の把握・分析（開館日毎日）</p> <p>【イ】 指定管理者日報による利用者ニーズ・意見の把握・分析（開館日毎日）</p> <p>【イ】 口頭・電話・メール・手紙等の受理による利用者ニーズ・意見の把握（開館日毎日）</p>				
前年度との主な変更点	・変更点なし					
直近の協議会評価意見に対する取り組み	<p>・令和 4 年度第 2 回博物館協議会において、1) 計画・目標には、ルーティンとして継続的に実施する事業だけではなく、チャレンジして実施・達成できるような事業があるはずなので、計画の中で事業ごとに難易度を設定すること、2) 中長期的に到達する事業・目標については、年度ごとの到達点を示すこと、などを提案いただいた。令和 4 年度アイヌ民族文化研究センター専門部会では、アンケートにおける自由記述を協議会員にも共有してほしいという意見があったほか、令和 5 年度第 1 回博物館協議会においては、1) 来館者・道民からの意見・希望を博物館の業務や企画に活かせる構造の検討、2) 博物館評価調書の記入等において、評点に至る理由が明確にわかるような記載方法、などの指摘をいただいた。改善点について、指摘を踏まえ修正を図ってきたい。</p>					
特記事項 (計画を達成するための課題等)	<p>・第 3 期中期目標・計画期に向けて、協議会評価意見を踏まえ評価調書や評価基準等の見直しが必要。</p>					

令和6年度 博物館評価調査書

中期目標・計画番号		10	所管 G	企画 G		
項目名		道民参加の推進				
計画策定担当者		研究主査	学芸主幹	所要見込額 (千円)	前年度	当年度
		遠藤志保	会田理人		0	0
予算計上						
年度計画	重点項目 (重要性・緊急性)	【中期目標・計画/重点②】【ア】【イ】 道民参加型学習サークル活動の推進（各研究 G へのサークル立ち上げへの働きかけ） 【中期目標・計画/重点②】【ア】 第 3 期中期目標・計画期におけるボランティア活動の導入を含めた総合展示室、はっけん広場、図書室等での利用者対応組織の検討 【中期目標・計画/重点②】【ウ】 北海道博物館の各種活動に対する道民参加のあり方検討				
	一般項目	【ア】【イ】 道民参加型学習サークル活動の推進（道民サービス G と連携） 【ア】 博物館基盤整備に係るボランティア活動の推進（博物館基盤 G と連携） 【イ】 道民参加型調査研究の推進（研究戦略 G と連携） 【イ】 道民参加型展示の推進（博物館基盤 G と連携） 【イ】 博物館実習生が企画・作成する展示コーナーの運営（年間夏期 1 回実施）				
前年度との主な変更点		<ul style="list-style-type: none"> <li>前年度までは北海道博物館のウェブサイト内に「博物館の活動に参加しよう」のページを検討・新設・更新する計画であったが、サイトに掲載する内容である道民参加型の諸活動に未確定の部分も多いことから、ウェブサイトの整備よりも諸活動の基盤を整えることを優先するべきと考え、令和6年度計画からは削除した。</li> <li>上記以外については、前年度までの業務・課題に引き続き取り組む必要があることから、変更点はない。</li> </ul>				
直近の協議会評価意見に対する取り組み		<ul style="list-style-type: none"> <li>該当意見なし。</li> </ul>				
特記事項 (計画を達成するための課題等)		【道民参加型活動の検討】 ・第3期中期目標・計画期に向けて、学芸部・研究部の各グループと道民参加型活動の具体化に向けた検討が必要。				

令和6年度 博物館評価調書

中期目標・計画番号		11	所管 G	企画 G			
項目名		博物館ネットワーク					
計画策定担当者		学芸主査	学芸主幹	所要見込額 (千円)	前年度	当年度	全体所要額
		尾曲香織	会田理人		70	70	
予算計上		<p>【環境生活部総務課計上】</p> <p>□総務管理諸費（各種負担金：公益財団法人日本博物館協会会費）[55 千円]</p> <p>□総務管理諸費（各種負担金：北海道博物館協会会費）[15 千円]</p> <p>※北海道博物館協会の運営（事務局館）に係る経費は、北海道博物館協会から支出。</p>					
年度計画	重点項目 (重要性・緊急性)	【中期目標・計画/重点③】【(2)ア】 国立アイヌ民族博物館との連携による北海道内博物館の活性化に向けた検討（道内博物館への誘客促進、今後の連携・協働・役割分担についての協議）（アイヌ民族文化研究センターと連携）					
	一般項目	<p>(1) 各種博物館団体との連携</p> <p>【ア】 日本博物館協会（日博協）との連携・協力、北海道支部の運営</p> <p>【ア】 全国歴史民俗系博物館協議会（歴民協）との連携・協力</p> <p>【イ】 北海道博物館協会（道博協）との連携・協力</p> <p>【イ】 北海道博物館協会の運営（担当職員が事務局を兼務して執行）</p> <p>【イ】 北海道博物館協会学芸職員部会等への職員の積極的参画の促進</p> <p>(2) 博物館交流の促進</p> <p>【ア】 周辺施設とのネットワーク事業の実施 [年間 3 件程度]</p> <p>【ア】 外部主催イベントへの参画 [年間 3 件程度]</p> <p>【イ】 道内学芸職員対象の研修会等の開催検討（学芸職員部会との連携）</p>					
前年度との主な変更点		・変更点なし。					
直近の協議会評価意見 に対する取り組み		・該当意見なし。					
特記事項 (計画を達成するための課題等)		<p>【各種博物館団体との連携】</p> <p>・北海道博物館協会事務局業務の円滑な運営に向けて、日頃から関係機関・加盟館園とのこまめな情報共有が必要。</p>					

令和6年度 博物館評価調査書

中期目標・計画番号		12	所管 G	博物館基盤 G		
項目名		情報発信				
計画策定担当者		主査	学芸主幹	所要見込額 (千円)	前年度	当年度
		櫻井万里子	鈴木琢也		5,338	5,344
予算計上		□情報システム整備費、総合政策部随計上 [5,344 千円] ※図書購入費は、北海道博物館試験研究費(情報集積推進事業)のなかの図書購入費 [680 千円] より充当。				
年度計画	重点項目 (重要性・緊急性)	【(1)ア】 収蔵資料データベースに登録する情報(デジタルカメラによる写真撮影、ネガフィルムのスキャン、資料情報内容の調査等)の拡充推進 【(1)ア】 収蔵図書(道内外の博物館展示会図録等を含む)の整理とデータベース登録 【(1)ア】 北海道博物館(旧開拓記念館、旧センター含む)刊行物(特別展図録、研究紀要、ニュースレター等)のスキャンによるアーカイブ化の検討 【(1)イ】 収蔵資料データベース、収蔵図書データベース、刊行物アーカイブの公開のあり方検討。特に収蔵資料データベースは、文化観光推進法に基づく「北海道立総合博物館を中核とした野幌森林公園エリアの文化観光推進拠点計画」(以下、「文化観光推進拠点計画」)の実現を図るため、当館及び開拓の村の展示(収蔵)資料の魅力を広く伝え、野幌森林公園エリアの周遊促進につながる手法を検討のうえ公開する。				
	一般項目	(1) 情報発信機能の強化 【ア】 情報システム(収蔵資料データベース)の保守・管理・機能拡充 【イ】 情報システムを活用した関係機関(道内外博物館、文書館、図書館等)とのネットワーク構築に向けての検討(道民サービス G と連携) 【イ】 デジタル技術を用いた総合展示の情報発信 【イ】 『北海道博物館資料目録』刊行実施計画の作成  (2) 道民の「知りたい」気持ちへの支援 【ア】 収蔵図書の充実 [年度末時蔵書数見込 153,000 冊程度] 【ア】 図書ボランティア制度の運用 【イ】 図書室の開架部分のレイアウトや表示等を工夫し一般来館者が気軽に利用しやすい環境を整備 [年間利用者見込 3,500 人程度(うち図書室のみの利用者 35 人程度)] 【イ】 企画展示および総合展示の理解を深めるための図書展示コーナーの更新・運営(年間 6 回程度) 【ウ】 各機関、個人からの問い合わせなどのレファレンス対応と推進 [年間見込 560 件程度] 【ウ】 レファレンスの窓口一元化(ICT を活用したレファレンスなど)と効率化(よくある問い合わせ Q&A の開設など)による機能強化に向けた検討 【ウ】 関係機関(道内外博物館、文書館、図書館など)との連携によるレファレンスの検討				
前年度との主な変更点		・「文化観光推進拠点計画」が採択され、博物館・開拓の村資料のデジタル化及びデジタルアーカイブの充実に向けた事業を実施することに伴い、重点項目【(1)イ】の収蔵資料データベースは、野幌森林公園エリアへの周遊促進につながる形で公開を行う旨を明確にした。				
直近の協議会評価意見に対する取り組み		・該当意見なし。				
特記事項 (計画を達成するための課題等)		・特になし。				



令和6年度 博物館評価調書

中期目標・計画番号		13	所管 G	企画 G		
項目名		人材育成機能の強化と社会貢献				
計画策定担当者		学芸主査	学芸主幹	所要見込額 (千円)	前年度	当年度
		山際秀紀	会田理人		0	0
予算計上		※当館職員の研修派遣については、北海道博物館試験研究費のなかで調整。				
年度 計 画	重点項目 (重要性・緊急性)	【(3)】当館職員、とりわけ若手学芸職員の博物館に関する知識と技術力、及び研究力を高め、将来の博物館機能の向上に結びつける。また、そのために必要な支援の拡充に努めるための検討。				
	一般項目	<p>(1) 博物館実習生やインターンシップなどの受入れ                  【ア】博物館実習生やインターンシップの受入れ [年間 16人程度]                  【ア】職場体験・見学実習の受入れ [年間 10件、延べ 100人程度]                  【イ】高校・大学等のニーズに応じた当館職員の講師としての派遣</p> <p>(2) 外来研究員の受入                  【 】外来研究員(外部研究者や大学院生等)の受入に関する検討・取組・制度整備(研究戦略 G と連携)</p> <p>(3) 当館職員の資質向上                  【 】博物館学系研修会や技術研修会への当館職員の参加 [年間見込 10件、延べ 20人程度]</p> <p>(4) 職員の対外貢献                  【 】招待講演(講座・講演会)等への職員派遣、各種委員・非常勤講師への就任、学術的な協力(指導助言等)、執筆依頼等 [年間 70件程度]</p> <p>(5) 外部機関との事業連携                  【 】他機関等との連携・協力 [年間 20件程度]</p> <p>(6) 道民の豊かな暮らしづくり・北海道の未来づくりへの貢献                  【ア】【ウ】アイヌ民族の歴史や文化、和人の歴史や文化、北海道における自然と人との関わり、そしてそれらを総合的に捉え持続可能な共生社会を模索する政策の推進                  【イ】「北海道総合計画」(平成 28 年度～令和 7 年度)などとリンクし、北海道が抱える諸問題の解決、道民の豊かな暮らしづくりと北海道の未来づくりへと結びつく研究・博物館活動を推進</p>				
前年度との主な変更点		・変更点なし。				
直近の協議会評価意見 に対する取り組み		・令和 4 年度第 2 回博物館協議会において、予算が 0 円の事業項目について評価結果が低調の傾向があるという指摘をいただいた。研修の派遣旅費については館内調整を図り、ある程度の職員派遣が実現できるよう努める。				
特記事項 (計画を達成するための課題等)		【当館職員の資質向上】 ・特定の専門性に偏ることなく職員の研修派遣が実施できるよう、年間計画策定や体制構築が必要。				

## 令和6年度 博物館評価調書

中期目標・計画番号	14	所管 G	研究戦略 G			
項目名	研究成果の発信					
計画策定担当者	学芸主査	学芸主幹	所要見込額 (千円)	前年度	当年度	全体所要額
	東 俊佑	水島未記		702	702	
予算計上	<p>□北海道博物館試験研究費（研究成果の集約・発信）[702千円]</p> <p>※上記は、主に『北海道博物館研究紀要』の刊行費。</p> <p>※『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』刊行費は、北海道博物館事業費（アイヌ民族文化研究センター・調査研究）により実施 [919千円]。→「15 アイヌ民族文化研究センターの事業」を参照のこと。</p>					
年度計画	重点項目 (重要性・緊急性)	<p>【(1)ア】『北海道博物館研究紀要』投稿原稿の執筆推進と編集・刊行（年間1回）</p> <p>【(1)ア】『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』投稿原稿の執筆推進と編集・刊行（年間1回）</p>				
	一般項目	<p>(1) 学術刊行物などの刊行</p> <p>【ア】『研究紀要』掲載の各種原稿の当館ウェブサイトにおける PDF ファイルの配信</p> <p>【イ】 職員の研究成果をわかりやすくまとめた刊行物等（叢書、新書、ブックレット、総合展示専門解説書等）の刊行の検討</p> <p>【 】 researchmap を通じた学芸職員の研究業績・博物館活動実績の更新推進（当館ウェブサイトの「スタッフ紹介」とリンク）</p> <p>(2) 学会への発信</p> <p>【 】 学会誌等、館出版物以外の出版物への執筆推進 [年間 35 件程度]</p> <p>【 】 学会、研究会等での発表推進 [年間 20 件程度]</p>				
前年度との主な変更点	<ul style="list-style-type: none"> <li>印刷製本費がここ数年増加傾向にあり、年 1 回 2 冊の『研究紀要』刊行が危なくなっているため、2 冊の年 1 回刊行と執筆推進の事項を「一般項目」から「重点項目」へ変更した。</li> <li>前年度重点項目として掲げていた「各種研究成果を『研究紀要』その他刊行物を通じて効果的に発信していくための実施検討」を重点項目から削除し、実際に近年取り組んでいる「『研究紀要』の PDF ファイル配信」と「researchmap 更新」の 2 項目を「一般項目」として新たに追加した。</li> </ul>					
直近の協議会評価意見 に対する取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>該当意見なし。</li> </ul>					
特記事項 (計画を達成するための課題等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>特になし。</li> </ul>					

令和6年度 博物館評価調査

中期目標・計画番号	15	所管G	アイヌ民族文化研究センター			
項目名	アイヌ民族文化研究センターの事業					
計画策定担当者		センター長	所要見込額 (千円)	前年度	当年度	全体所要額
		小川正人		1,438	1,438	
予算計上	□北海道博物館事業費(アイヌ民族文化研究センター分) [資料保存管理: 268千円、調査研究: 919千円、広報: 251千円]					
年度計画	重点項目 (重要性・緊急性)	【中期目標・計画/重点③】ウポポイ(民族共生象徴空間)とりわけ国立アイヌ民族博物館との連携を含めた北海道内博物館の活性化貢献に向けた検討・取り組み				
	一般項目	<p>(1) アイヌ文化に関する調査研究とその成果の普及</p> <p>〈調査研究〉</p> <p>【ア】【イ】 アイヌ民族文化研究センターが主体となって立案し実施する研究プロジェクトの推進 [道費による研究: 2 課題 (この 2 課題の下に、各職員が 1 名ないし複数名で実施する個別課題を設けている)]</p> <p>【ア】【イ】 北海道博物館全体で取り組む海外との共同研究等の研究プロジェクトへの参画と推進</p> <p>【ア】【イ】 日本学術振興会科学研究費補助金など外部資金を活用したアイヌ文化関連調査研究の推進</p> <p>【中期目標・計画/重点④】 樺太(サハリン)に関わる資料の収集・保管、調査研究、展示活動を推進する「樺太記憶継承事業」の推進</p> <p>〈資料の収集と整理・公開〉</p> <p>【イ】 アイヌ文化に関する資料の収集と整理の推進</p> <p>【ウ】 採録等による資料についての公開計画の策定とこれに基づく公開の実施(諸手続含む)</p> <p>【イ】【エ】 アイヌ文化関係資料のデジタル化・情報発信の促進</p> <p>〈研究成果の発信と普及〉</p> <p>【エ】 『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』の編集計画の策定と投稿の奨励・推進</p> <p>【エ】 館内外における教育普及事業(講座、ワークショップ等)を通じた研究成果の発信や理解促進・教育普及の取り組み</p> <p>【エ】 当館における企画展示の立案及び実施に向けた検討 ※館全体での計画策定の中で検討を進める。</p> <p>【エ】 当館総合展示における展示資料の入替及びクローズアップ展示の更新 ※所定の件数を着実に進める</p> <p>【エ】 道内市町村と連携・協力した「アイヌ文化巡回展」の開催(広尾町での開催を検討)</p> <p>【エ】 アイヌ文化紹介小冊子『ボン コンビソッ』(全 1~9 巻)の増刷(補訂)・配布・活用 [都度実施]</p> <p>【エ】 広報誌『森のちゃれんがニュース』の「アイヌ民族文化研究センターたより」などを通じたアイヌ民族文化研究センターの活動に係る情報の発信</p> <p>(2) アイヌ文化に関する学術情報の集約と発信・研究支援</p> <p>【ア】 アイヌ文化に関する学術情報(収蔵資料データ、調査データ、文献情報等)の集約</p> <p>【ア】 「アイヌ語アーカイブ」など当館ウェブサイトにおける情報発信</p> <p>〈対外支援・社会貢献、博物館等のネットワーク〉</p> <p>【イ】 市町村やアイヌ文化伝承活動団体等からの、アイヌ文化の学習や伝承活動、展示等の事業に関する依頼・照会に対する、専門的見地から助言・支援・協力等。</p> <p>【ア】 国立アイヌ民族博物館によるネットワーク事業への参画</p>				
前年度との主な変更点	・ 特段の変更はなく、前年度に引き続き、中期目標・計画に基づき個別の事業の年度計画を策定し実施する。					
直近の協議会評価意見に対する取り組み	・ 令和 5 年度アイヌ民族文化研究センター専門部会における主な意見(「研究成果の提供や、教育普及の取り組みなどが、アイヌ民族自身により届きやすく、伝わりやすいようつとめてほしい」「展示等において、これまでは研究者や資料収集者が中心に置かれることが多かったが、これらの人々の功績とともに、何よりもアイヌ民族の側を中心に据えた展示や解説を心がけてほしい」等)について、それぞれについてはつとに意識すべきとしているところであり、令和6年度の事業内容や令和7年度以降の事業計画にあたり、より注力する。					
特記事項 (計画を達成するための課題等)	<p>・ 採録等による資料の公開について、館内での整理を進めてきたことを踏まえ、公開にかかる許諾等の手続きと、公開用資料の編集作業を進める必要があり、昨年度の進め方を踏まえ、より計画的・継続的に取り組む。</p> <p>・ 近年における、道内市町村や道外におけるアイヌ民族・アイヌ文化にかかる事業の増加や、アイヌ文化の継承者・担い手育成の重要性がより認識される状況のもとで、社会全体におけるアイヌ民族の歴史や文化に関する理解の促進、とりわけ、各種事業を担う自治体や請負事業者における理解の促進がより重要な課題となっていることから、昨年度までの取り組みに引き続き、こうした地域支援や理解のあり方に関する取り組みを検討する。</p>					

令和6年度 博物館評価調書

中期目標・計画番号	16	所管 G	北海道博物館 (企画 G)			
項目名	4つのビジョン (重点目標)、及び博物館運営に係る重点課題					
計画策定担当者	研究主査	学芸主幹	所要見込額 (千円)	前年度	当年度	全体所要額
	遠藤志保	会田理人		25,216	222,218	
予算計上	<p>□歴史文化「体感」交流空間再生事業費、野幌森林公園エリア活性化・拠点化事業費 [222,218 千円]          (文化観光拠点施設機能強化事業費補助金[17,027 千円]を含む)</p> <p>□アイヌ文化地域振興支援事業費 [10,252 千円]</p> <p>※樺太記憶継承事業 [6,061 千円、財源：基金繰入金、時限付き (15 年間)]          →「1 資料の収集・保存」「2 展示」「3 調査研究」を参照のこと。</p>					
年度計画	重点項目 (重要性・緊急性)	<p>【中期目標・計画/重点①】          「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」実現に向けた取組の推進          ・「野幌森林公園エリアの活用」及び「北海道開拓の村利活用方針」に基づく具体的な取組 【中期目標・計画番号「7」より】          ・文化観光推進法に基づく「北海道立総合博物館を中核とした野幌森林公園エリアの文化観光推進拠点計画」(文化庁・文化芸術振興費補助金)による、「北海道総合博物館文化観光拠点施設機能強化事業」の実施</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開拓の村を中心に、収蔵資料のデジタルアーカイブを促進 (目標：800 件)</li> <li>・総合展示の展示磨き上げ (対象：第3テーマ・第4テーマ)</li> <li>・開拓の村の屋内展示の魅力向上 (対象：旧岩間家農家住宅)</li> <li>・展示解説・案内における多言語化の推進 (ASEAN 諸国の言語の翻訳を追加)</li> <li>・開拓の村の歴史的建造物における「三次元点群データ」のデータ構築</li> <li>・オリジナル商品・飲食メニューの新規開発に向けたコンセプト構築</li> <li>・開拓の村を回遊する拠点になる「公開型修復工房」整備に向けた実施設計</li> </ul> </div> <p>【中期目標・計画/重点②】道民参加型の活動の推進 【中期目標・計画番号「10」より】          ・北海道博物館の各種活動に対する道民参加のあり方検討</p> <p>【中期目標・計画/重点③】道内博物館の活性化への貢献          ・北海道博物館協会事務局館として、関係施設・機関等との連携・協力を継続して実施          ・「アイヌ文化でつながる博物館等ネットワーク」(事務局館：国立アイヌ民族博物館)の諸事業への参画・協力          【中期目標・計画番号「11」より】</p> <p>【中期目標・計画/重点④】「樺太記憶継承事業」の推進          ・全国樺太連盟から移譲を受けた資料を活用した樺太の歴史・生活文化等の記憶継承に関する調査研究の実施          推進 [道費による研究] 【中期目標・計画番号「3」より】</p>				
	一般項目					
前年度との主な変更点	<p>・文化観光推進法に基づく「北海道立総合博物館を中核とした野幌森林公園エリアの文化観光推進拠点計画」が採択されたことによる事業の実施。</p>					
直近の協議会評価意見 に対する取り組み	<p>・該当意見なし。</p>					
特記事項 (計画を達成するための課題等)	<p>【文化観光推進法に基づく「北海道立総合博物館を中核とした野幌森林公園エリアの文化観光推進拠点計画」(文化庁・文化芸術振興費補助金)による、「北海道総合博物館文化観光拠点施設機能強化事業」の実施】</p> <p>・実施項目が多岐にわたることから、全体的な作業スケジュール管理や館内他業務との調整、実施体制の構築が必要。</p>					